

モーツァルト:弦楽四重奏曲 第21番「プロシア王四重奏曲第1番」(1789)

Mozart: String Quartet No.21 in D major K575 "Prussian No.1"

ヤナーチェク:弦楽四重奏曲 第1番「クロイツェル・ソナタ」(1923)

Janáček: String Quartet No.1 "Kreutzer Sonata"

ベートーヴェン:弦楽四重奏曲 第16番(1826)

Beethoven: String Quartet No.16 in F major op.135

Best &
Oldest

アメリカの至宝、
歴史を創る男たち

Juilliard String Quartet

ジュリアード弦楽四重奏団

2013年5月31日 金 19:00 | 紀尾井ホール

ジョセフ・リン(ヴァイオリン)

Joseph Lin, violin

ロナルド・コープス(ヴァイオリン)

Ronald Copes, violin

サミュエル・ローズ(ヴィオラ)

Samuel Rhodes, viola

ジョエル・クロスニック(チェロ)

Joel Krosnick, cello

S:¥7,000 / A:¥6,000 / U25:¥3,000

●U25は1988年以降生まれの方限定のチケットです。公演当日、生年を証明できるものをご持参ください。

●都合により曲目、曲順などを変更させていただく場合がございます。

●未就学児のご入場はご遠慮ください。

[プレイガイド]

紀尾井ホールチケットセンター: 03-3237-0061 (10-18時/日祝休)

チケットぴあ: 0570-02-9999 | <http://t.pia.jp> (Pコード:192-164)

イープラス: <http://eplus.jp>

主催・問合: テレビマンユニオン | www.tvumd.com

協力: ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル

©(公財)新日鉄住金文化財団

フロイデル

1946年創立以来、ジュリアード弦楽四重奏団は、創立者かつ第1ヴァイオリンを50年に渡り担当したロバート・マンツ、結成当時の学長ヴァリラム・ジュエベンが「新しい作品をあたかも定評ある偉大な作品であるかのように演奏し、偉大な作品をあたかも新しい作品であるかのように演奏する」というモットーを具現化してきた。明確なサウンド、作品の構造の明晰な表現、音の美しさ、旋律の純粋さ、そして共通の目的に向かう姿勢は、ベートヴェン、シューベルト、バルトーク、カーター、ダヴィッドスキー、バビット、ローニツ

クに至るまで全て時代の作品に一貫して表現されている。

長い歴史の中で、ジュリアード弦楽四重奏団は500曲以上の作品を演奏し、その中には、ジャズの作品含む60名ほどのアメリカ作曲家の初演が含まれる。ジュリアード弦楽四重奏団はバルトークの弦楽四重奏曲全6曲をアメリカで初めて演奏し、またシェーンベルクの弦楽四重奏曲の斬新な演奏で、シェーンベルクの再評価を現代に知らしめるという偉業を成し遂げた。

アメリカそしてジュリアード音楽院を代表するクワルテットとして、常に音楽院の世界的評価を維持することに多大なる貢

献をしてきた。40年以上に渡り、国会図書館のレジデンシーを務め、ミシガン州立大学でも10年以上レジデンシーを務めている。また、各メンバーは、世界各地で後進の指導にあたり、毎年恒例のジュリアード音楽院でのセミナーでは、様々な卒業生のクワルテット・イン・レジデンス（アラン・ターノ、アメリカン、キアラ、エーヴン、上海、セント・ローレンス、東京）などと連携し、様々なアンサンブルの規範となっている。

100枚以上の録音をリリースしており、現代で最も広範囲の録音を残している弦楽四重奏団と言える。バルトーク全集、シェーンベルク全集、ドビュッシーとラベルのクワルテット集はグラミー賞を受

賞している。バルトークとシェーンベルクの作品集で、National Academy for Recording Arts of Fameに任命され 1993年にはレコード業界での貢献を讃えられ、ドイッ・レコード批評家賞を受賞した。2011年には、アメリカのレコード・アカデミーよりグラミー賞・功労賞 (Lifetime Achievement Award) を授与された。

2013年7月をもって、44シーズンに渡り、ジュリアード弦楽四重奏団のヴァイオラ奏者を務めてきたサミュエル・ローズが退団を表明。今回の日本ツアーが、サミュエル・ローズがヴァイオラを務める最後のツアーとなる。



ジュリアード弦楽四重奏団 Juilliard String Quartet

プログラムの聞きどころ

私たちは、今回の紀尾井ホール公演でクワルテットにおける3つの傑作を取り上げます。

プログラムの初めのモーツァルトの作品は、彼が作曲した最後の3曲の弦楽四重奏曲の1曲目の作品で、モーツァルトは、アマチュアのチェリストでもあったフロイゼン王、フリートリッヒ・ウエルヘルム2世に献呈したものです。そのため、他のモーツァルトの弦楽四重奏曲に比べて、チェロが、メロディーを奏でる個所が多々あり、曲全体を通して、“テノール”として主旋律を奏でる役割をしています。音楽的にもそれを生かすために、他の楽器も役割を代えなくてはなりません。ヴァイオラは、“バス”の旋律、2台のヴァイオリンは中声部の旋律を担当します。第3楽章のトリオは良い例です。私自身は、特に第2楽章が好きで、アンダンテはモーツァルトのおべらのアンサンブルのようです。作品の性格、そして、これが歌えて、モーツァルトがロマンチックな愛を表現する時に使ったイ長調で書かれていることから、この作品は、第1ヴァイオリンとチェロによる愛のデュエットの響きがあります。私の1番好きな瞬間は、冒頭の後のすぐのフリーズで、4台の楽器の会話が始まり、それがメロディーになって

いくとこです。第1ヴァイオリンとチェロは幸せて満たされた感じであり、第2ヴァイオリンは少し気難しく、ヴァイオラは困っているように、音楽は、物憂げな方向に進み、その後を、また再び最初の“恋人(第1ヴァイオリンとチェロ)”が引き連れて、順風な航海に出ていきます。

ヤナーチークは、独特な音楽の音を持っています。村上春樹氏の愛読者なら、彼の作品の“1984”で重要な役割を果たすヤナーチークのシンフォニータを聞いて、独特な声というものは良くお分かりになっているでしょう。今日、演奏することの弦楽四重奏曲の副題は、“クワイツェル・ソナタ”で、ベートヴェンの“クワイツェル・ソナタ”に刺激されたトルストイの小説からインスピレーションを得たものです。この作品は、トルストイの作品の意図を表現したものではありませんが、登場人物への厳しい批判と感情を表現しています。妻の愛慕、夫の嫉妬心、執着心が、非常に鮮やかに表現され、対比されています。曲の最後で、内側からこみあげてきたものが爆発し、最も怒りに満ちたクライマックスを曲にもたらします。聴く人は、夫が暴走列車に乗って猪突猛進に妻に向かっている様子、彼の暴力、彼の経はすみな行動によって生まれるその悲しい結末を聴くでしょう。この感情的な衝撃は特に大きく、演奏する者にとってはその衝撃によって投げ出されないよう集中し続けることが大変難しい作品です。

ベートヴェンの作品135の弦楽四重奏曲は、後期の弦楽四重奏曲の中の1番最後の曲で、ベートヴェンの聴覚が

かなり失われた頃の作品です。従って、この曲は、彼の内なる人生の回顧であり、彼の技術と表現力の究極の完成品です。この曲で顕著に表れる作品の性格は“ユーモア”です。第1、第2、第4楽章では、そのユーモアの性質を違った形で表現しています。一方、対照的なのは、緩徐楽章(第3楽章)で、これはこの世に存在する作品の中でも、最も深淵なものになっています。

また、最終楽章(第4楽章)は、ある特別な物語に触発されてつくられました。この作品を委嘱した商人、ヨハン・ゾールフマイヤーは、この作品のお披露目のコンサートを企画しました。しかし、経済的な困難に陥り、ベートヴェンに、「そうしなければなりませんか? (“Muss es sein?”)」と支払いの免除を懇願しに行きます。対し、ベートヴェンは拳を振り、怒りを爆発させ、「そう、そうしなければならぬ! (“Ja, ja, es muss sein!”)」と一蹴します。皮肉なことにベートヴェンはこの事件に影響され、短いカノン作曲した際、楽譜に、“Ja, ja, es muss sein!”と書きました。そして、最終楽章を「よややくついた決心: そうしなければなりませんか? そうしなければならぬ!」と記します。聴く人は、“そうしなければなりませんか?”という見せかけの深刻さと、そして、“そうしなければならぬ!”という感情の吐露を聴くことでしよう。

サミュエル・ローズ (ヴァイオラ)

ジュリアード弦楽四重奏団 on SONY Classical

ジュリアード弦楽四重奏団は、その幅広いレパートリーどの作品も、新鮮さと緻密な集中力を駆使し、圧倒的な演奏をいつも聞かせてくれる

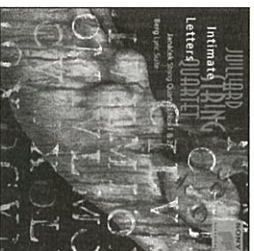
…ニューヨーク・タイムズ



長い歳月をかけて育まれた、ベートヴェン演奏の結論

ベートヴェン:弦楽四重奏曲
第13番(大フーガ付) &
第16番

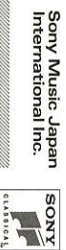
1996年録音
演奏 ジュリアード弦楽四重奏団:
ロバート・マン (第1ヴァイオリン)
ジョエル・スミルノフ (第2ヴァイオリン)
サミュエル・ローズ (ヴァイオラ)
ジョエル・クロニツク (チェロ)
CD: SMCN1807 ¥2,345 (税込)



円熟のカルテットのみが成しえた極上の音楽

ヤナーチーク:弦楽四重奏曲
第1番「クワイツェル・ソナタ」&
第2番「新しいしの手紙」
ベルク:抒情組曲

1989年、1995年録音
演奏 ジュリアード弦楽四重奏団:
ロバート・マン (第1ヴァイオリン)
ジョエル・スミルノフ (第2ヴァイオリン)
サミュエル・ローズ (ヴァイオラ)
ジョエル・クロニツク (チェロ)
CD: SMCRT791 ¥2,345 (税込)



www.juilliardstringquartet.org

テレビフュニオン | www.tvuund.com | tvu_md | 〒150-0001東京都渋谷区神宮前5-53-67 | 電話:03-6418-8617(10-18時/土日祝休)

右側に掲げられています。売り切りの場合はご購入ください。